

— 海の匠 —

伊根町：永濱茂（ながはましげる）

〔グジ（アカアマダイ）の延縄（はえなわ）釣り〕

従来のアマダイ漁では生きた赤エビを餌にしていたのを、冷凍赤エビに切り替えて操業する技術を確立。これにより夏場の餌の確保、省力化と労働時間の大幅な短縮を実現

京丹後市：広瀬弥一郎（ひろせやいちろう）

〔水視漁法〕

丹後地域で工夫改良され伝承されている一人操業の沿岸漁法の第一人者。口に箱眼鏡（はこめがね）をくわえ、左手で櫂（かい）を漕（こ）ぎ、右手でサザエをつくヤスやアワビを起こすカギなどを巧みに操る。

宮津市：小倉武司（おぐらたけし）

〔小型定置網漁法〕

「しめ縄方式」の小型定置網は重労働であったが、昭和 40 年頃に「つぼ網方式」（定置網の最後部に取り付けた「つぼ網」に魚を追い込む方法）を開発し、操業の省力化と漁獲向上を図る。

京丹後市：鳴海澄（なるみきよし）

〔刺網漁法〕

魚の回遊路や季節毎の魚群の位置を熟知し、魚種に合わせて網の材質と目合い、網の設置場所、設置時間、浮きや重りの強さ等を工夫・改良し効率的で確実な漁獲方法を確立

舞鶴市：水嶋敬次（みずしまとしつぐ）

〔定置網漁法〕

大浦半島沿岸は急深で潮流が早く定置網の敷設に困難だったが、同様に潮流の早い地域から導入された定置技術を継承発展し、定置網の流失を防ぐ碇の設置方法に工夫と改良を重ねる。

京丹後市：和田照雄（わだてるお）

〔ソデイカ釣り漁法〕

大型疑似餌の開発、二尾釣、揚縄機の導入等漁具漁法を改良し、船足の早い FRP 漁船を導入するなど、ソデイカ釣り漁法を確立

宮津市：谷本庸之助（たにもとようのすけ）

〔ハモ・タチウオ延縄（はえなわ）〕

高度な延縄漁業技術を有し、幹縄に「釣針を付けた枝縄」を通常の数より多くつけることにより、漁獲効率を高めている。また、ステンレス製ハリス（針付きの糸）や冷凍の餌を最初に導入し、地元を広めた。

京丹後市：船戸正一（ふなとしょういち）

〔釣り漁業〕

一本釣漁業用自動巻揚機を開発し、大幅な省力化と漁獲量増加を実現し、潜航板を用いたヒラメの曳釣漁業に取り組み、ヒラメ漁場を開拓した。昔盛んに行われたエチゼンクラゲを餌にしたマダイ釣りの唯一の継承者である。

伊根町：泉一次（いずみかずつぐ）

〔水視漁法〕

アワビを傷つけずに効率よく採捕できる十手型漁具を導入し、地域の漁獲量を向上させるとともに、アワビ種苗放流、放流種苗購入資金積立制度の確立等、地域の磯根資源栽培への取り組みを主導。

京丹後市：豊嶋聰（とよしまさとし）

〔クルマエビ養殖〕

環境変動の激しい久美浜湾で、幼生の餌となる珪藻を安定的に繁殖させる手法の開発、疾病対策に取り組む等、地域に適した養殖技術を独自に確立し、永年にわたりクルマエビの栽培・養殖漁業に貢献した。

京丹後市：尾瀬登（おせのぼる）

〔アワビ改良漁具を用いた水視漁法〕

独自に改良したアワビ漁具をはじめ、複数の漁具を使い分け、アワビを傷つけず効率的に漁獲する技術を有するとともに、水視漁業研修（実習）を受け入れるなど技術伝承と担い手育成にも貢献した。

伊根町：橋本宣夫（はしもとのぶお）

〔海面魚類養殖技術〕

長年にわたり養殖技術の改良・工夫を行い、天然に近い良質な「伊根ブリ」の生産技術を確立するとともに、地元の同業者への技術伝承と水産物の計画・安定的供給を通じて地元漁業を牽引し地域観光に寄与している。

舞鶴市：一坂昇（いちさかのぼる）

[定置網漁法]

定置網を二重構造に改良したことにより、大型の魚を水揚げした後、小型のカタクチイワシを手早く水揚げすることができ、漁獲物の鮮度向上と選別作業の効率化を実現。生産の増大に繋がる技術であり、定置網漁業の振興に寄与している。